

臨床栄養部（総合心療センター）

主任 川崎 麻由

人事

総合心療センターでは入院患者 60 名、外来患者約 50 名に対して 1 名の管理栄養士が常駐していたが、2023 年 5 月より 1 名増員し、2 名体制となった。

業務・取り組み

病棟栄養管理業務（食事・経腸栄養・点滴の調整やの食事相談）、外来栄養食事指導やパティオでの食育講師を継続、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行後より、統合失調症家族相談会への参加も再開した。

食数

2023 年も稼働率の低迷が続きつつも、1 食平均提供食数は 2022 年から 2023 年で 42.8→45 食と若干ながら上昇を認めていた。低下していた特別食加算数が、2023 年には 1662 食と上昇（=126,312 円増収）しており、加えて濃厚流動食が、倍以上の提供数となっていた。食事の自力摂取が困難な身体合併症を抱える患者と摂食障害患者の増加が要因と考えられる。

表 1 給食状況報告

年間食種別食数（2022 年 → 2023 年）			
一般食	常食	27,544→26,650 食	58.7→54.1%
	全粥・流動・分粥	5,010→4,824 食	10.7→9.8%
特別食	加算	10,945→12,607 食	23.3→25.6%
	非加算(嚥下食含む)	2,956→4111 食	6.3→8.3%
濃厚流動食		450→1046 食	1.0→2.1%
合計		46,905→49,238 食	100.0%

栄養食事指導件数

入院栄養食事指導件数は、例年通り著変はなかった。

外来栄養食事指導件数は、退院時に定期的な外来栄養指導計画を立てる取り組みを継続し、指導件数は上昇した。他部署からの栄養指導依頼が少なく、新規の導入数は約 10 名と半減していたが、外来栄養指導対象患者が入院せずに在宅生活を続けながら外来通院できていることが、件数上昇理由の一つと考える。

また、信頼関係の構築を意識した取り組みとして、外来指導時には患者だけでなく来院しているご家族への労いの声掛けや対話を心がけている。

外来栄養指導患者 55 名の中、生活習慣病のコントロール改善や減量を目的とするケース 19 名の内約半数は、1 年間で 1.4～13.6kg（平均-4.4kg）の減量に成功したものの、あと半数は体重増加を示していた。過剰なストレスで暴飲暴食を行うケースや、気分の落ち込みや意欲低下からの活動量低下、不眠などによるエネルギー摂取過多が起こっており、今後は栄養指導の介入頻度の検討も必要と思われた。

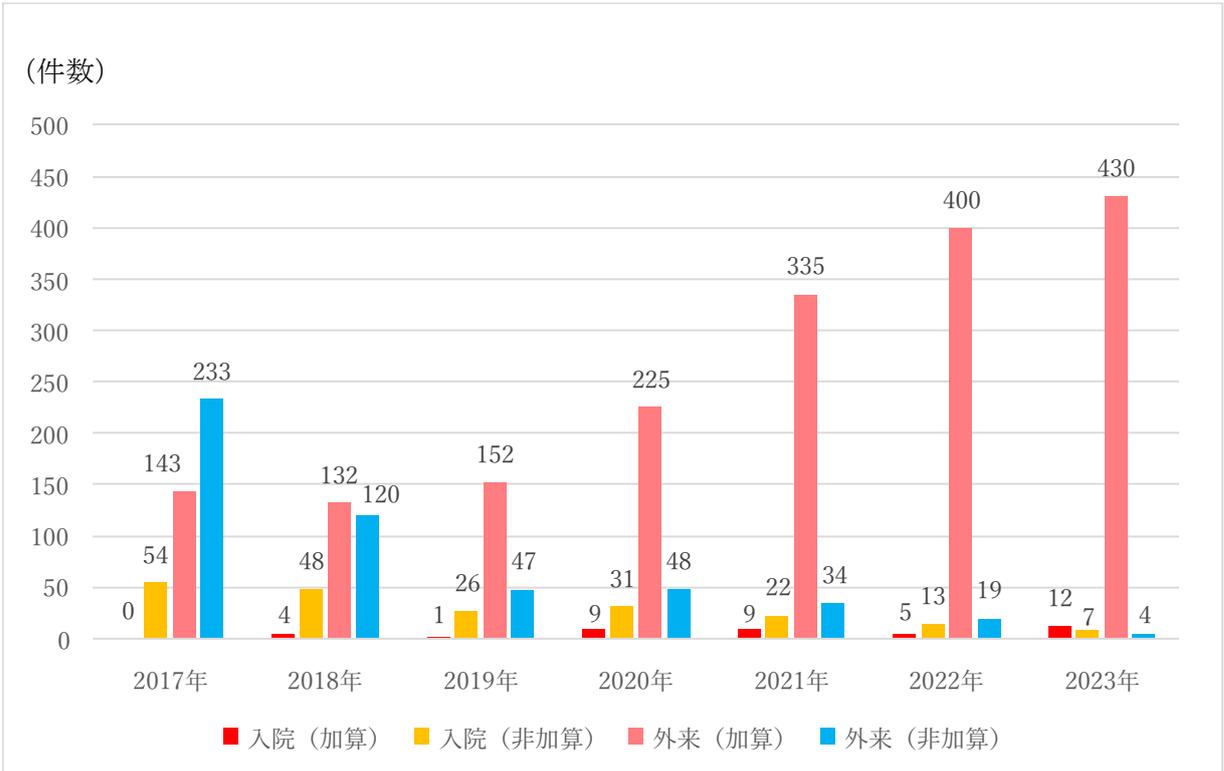


図1 栄養食事指導件数

担当管理栄養士増員に伴い、より深く、スピーディーな栄養管理を目指し、患者満足度にも繋がっていただくと考えている。